

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	22-052	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Correlates and consequences of anxiety and depressive symptom trajectories during early treatment for alcohol use アルコール使用に対する早期治療中の不安と抑うつ症状の軌跡と関連する因子の検討		
<b>執筆者</b>		
Rabinowitz JA, Ellis JD, Wells J, Strickland JC, Maher BS, Hobelmann JG, Huhn A.		
<b>掲載誌</b>		
Alcohol. 2023 May;108:44-54. doi: 10.1016/j.alcohol.2022.11.005.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコールの使用、不安症状、抑うつ症状、潜在的な軌跡、治療による消耗		36473635
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>アルコール使用の治療を受けている人において、不安症状や抑うつ症状の潜在的な軌跡が、治療中断を含む臨床に関連する変数と関連しているかどうかを調査した。</p> <p><b>方法：</b>参加者は 78 の中毒治療センターから抽出され、アルコール使用の治療中で、治療中のデータがあり、入所時に不安 (n=6147) または抑うつ症状 (n=6197) のスクリーニング陽性者とした。治療開始後 1 ヶ月間、不安症状と抑うつ症状を毎週測定した。不安症状 (持続する中等度の不安症状、再発する中等度の不安症状、および再発する軽度の不安症状)、抑うつ症状 (増加する中等度の抑うつ症状、持続する中等度の抑うつ症状、および再発する軽度の抑うつ症状) の 3 つの軌跡を同定した。</p> <p><b>結果：</b>女性、若年者、および過去 1 ヶ月間のベンゾジアゼピン使用量が多かったもの、服薬時に抑うつ症状があった人は、軽度の不安症状の再発グループと比較して、中等度の不安症状の持続グループに属する可能性が高かった。女性、服薬時に不安のスクリーニングで陽性とされた者、および過去 1 ヶ月のヘロイン使用を報告した者は、軽度の抑うつ症状の寛解グループと比較して、中等度の抑うつ症状の増加するグループに属する可能性が高かった。治療開始後 1 ヶ月の間、中等度の不安および抑うつ症状が持続する患者は、症状レベルが低いと報告した患者と比較して、治療から脱落する可能性が高かった。</p> <p><b>結論：</b>アルコール使用の治療を受けている患者において不安症状と抑うつ症状の軌跡の違いによって、異質性を示すことがわかった。特に持続的に高い不安症状と抑うつ症状が、治療を成功させる障害となる可能性がある。また治療中の不安および抑うつ症状の経過はその後の転帰に重要な意味を持つ可能性があるため、治療開始時の人口統計学および臨床的特徴を考慮することは重要である。</p>		